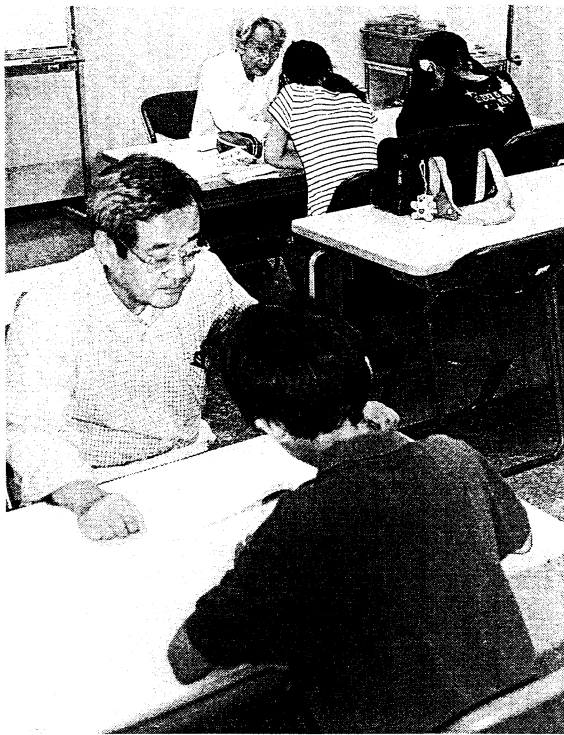


早大OB 無料寺子屋

西東京 小中72人に少人数指導

早稲田大OBらが西東京市で昨年12月から始めた「無料学習教室」が人気を集めている。経済的理由などで塾に行けない小中学生を受け入れ、地域の元教員や主婦らがボランティアで週1回、親身になってマンツーマン指導。「成績が上がった」「勉強がわかるようになった」と報告してくる子供もあり、参加希望の問い合わせが絶えない。

(河村武志)



マンツーマン指導を受けながら勉強する子供たち(西東京市で)

「her(彼女の)house(家)……」。9月16日夜、同市田無町の田無総合福祉センターで開かれた「無料学習教室」。NPO法人「稲門寺子屋西東京」が運営する教室に数人の生徒が参加していた。

英語の勉強をしていた中学1年の男子(13)は、「英語が苦手だったけれど、少しずつわかるようになってきた。成績をもっと上げた

いと真剣な表情で話した。4月から通い始め、一度も休んだことがないという。2年前、早大OBの同窓会組織「西東京稲門会」(会員約250人)のメンバー有志が「地域に役立つことが何かできないか」と話し合い、無料の学習支援を市に働きかけた。市は勉強場所を提供することを確約し、同会メンバーが昨年8月、運営するためのNPO法人「稲門寺子屋西東京」を設立した。

教室は昨年12月から同センターと柳橋市民集会所(新町)でスタート。当初は23人が集まったが、しばらく評判となり、4月に新年度生を募集したところ応募が殺到。現在は計72人を受け入れている。講師は約20人おり、早大卒業生だけでなく、定年退職した地域の元教員や主婦、社会人らがボランティアで務めている。

教室では1人が週1回、1教科を教わることができる。受け入れるのは小学5、6年生と中学生。小学生は算数と国語、中学生は英語と数学が対象教科だ。

子供3人に先生1人の少人数指導が評判を呼び、「勉強が楽しくなった」などと報告してくる子も多い。同法人事務局の小嶋弘さん(68)(保谷町)は、「地域の大人たちの熱意と善意で成り立っている教室です。『成績が上がった』という

子供の声を聞くとうれしくなりますよ」と笑顔で話す。小嶋さんの元には参加希望の問い合わせが数多く寄せられるが、「人数に限界があり、空気を待っている子供もいる」という。

市も勉強場所を提供するほか、運営費として年間20万円の補助金を出している。市協働コミュニティ課は、「教育格差の解消を指して地道に活動していただいております。教室について問い合わせは、小嶋さん(0800・4125・1038)へ。」